

# 国語「漢文」句法一覧①

no	句法	句形	読み方・意味	例文	書き下し文	現代語訳	アプリ収録パッケージ
<b>否定</b>							
1	不	～ず (～しない)		食不飽、力不足	食飽かざれば、力足らず	食糧が十分ではないため、力も十分発揮できない	4. 否定・禁止 > 否定その1
2	弗	～ず (～しない)		弗能応也	応ふる能はざるなり	答えることができなかった	
3	非	～にあらず (～でない)		若非吾故人乎	若は吾が故人に非ずや	おまえは私の旧友じゃないか	4. 否定・禁止 > 否定その2
4	非	～にあらず (～がない)		富貴非吾願	富貴は吾が願ひに非ず	富むことや身分の高いことは私の望むところではない	
5	無	～なし (～がない)		蛇固無足	蛇固より足無し	蛇にはもともと足がない	
6	莫	～なし (～がない)		莫能陷也	能く陥すもの莫きなり	突き通すことができるものはない	
<b>禁止</b>							
7	莫	～なかれ (～してはいけない)		酔臥沙場君莫笑	酔ひて沙場に臥す君笑ふこと莫かれ	酔って、この砂漠の戦場に寝転んでしまっても、君よ、笑ってはいけない	4. 否定・禁止 > 禁止
8	勿	～なかれ (～してはいけない)		己所不欲、勿施於人	己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ	自分が望まないことは、人にもしてはいけない	
9	無	～なかれ (～してはいけない)		子無敢食我也	子敢へて我を食らふこと無かれ	あなたはけっして私を食べてはいけません	
<b>二重否定</b>							
10	無[レ]非	～にあらざるなし (～でないものはない)		無非王土	王土に非ざるは無し	王の土地でないものはない	4. 否定・禁止 > 二重否定その1
11	無[レ]不	～ざるなし (～しないものはない)		於物無不陷也	物に於いて陥さざる無きなり	どんなものに対してでも、突き通さないことはない	
12	非[レ]不	～ざるにあらざる (～しないのではない)		非不惡寒也	寒きを悪まざるにあらざるなり	寒さを嫌がらないわけではない	4. 否定・禁止 > 二重否定その1
13	不[レ]可[レ]不	～ざるべからず (～しなくてはならない)		言不可不慎	言は慎まざるべからず	言葉は慎重に選ばなくてはならない	
14	不[レ]為[レ]不	～ずとなさず (～しないとは言えない)		不為不多矣	多からずと為さず	多くないとは言えない	
15	不[レ]能[レ]不	～ざるあたはず (～しないではいられない)		不能不爭	争はざる能はず	争わないではいられない	
<b>部分否定</b>							
16	不[二]必[一]～[一]	かみならずしも～ず (必ず～とは限らない)		師不必賢於弟子	師は必ずしも弟子より賢ならず	先生は、必ずしも門人より賢いわけではない	4. 否定・禁止 > 部分否定
17	不[二]常[一]～[一]	つねには～ず (いつも～とは限らない)		千里馬常有而伯樂不常有	千里の馬は常に有れども伯樂は常には有らず	一日に千里を走る名馬はいつでもいるが、名馬を見分ける名人はいつもいるとは限らない	
18	不[二]復[一]～[一]	また～ず (二度とは～しない)		免不可復得	免復た得べからず	二度と再び免を捕まえることができない	
<b>疑問・反語</b>							
19	与	～か・～や (～か)		是魯孔丘与	是れ魯の孔丘か	魯の国の孔子か	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その1
20	乎	～か・～や (～か)		子好勇乎	子勇を好むか	あなたは勇気を好むか	
21	邪	～か・～や (～か)		其真無馬邪	其れ真に馬無きか	そもそも本当に馬はいないのか	
22	何	なんぞ (どうして～か)		夫子何哂由也	夫子何ぞ由を哂ふや	先生はどうして子路のことを笑われたのですか	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その2
23	何	なにをか (なにを～か)		何謂浩然之氣	何をか浩然の氣と謂ふ	何を浩然の氣というのか	
24	何	なんの (どのよう～か)		何利之有	何の利か之有らん	どんな利益が有るだろうか	
25	何	いつれの (いつの)		何日是帰年	何れの日か是れ帰年ならん	いつの日になったら故郷に帰るときがくるのだろうか	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その3
26	何	いつれの (どこの)		出門何処望京師	門を出でて何れの処にか京師を望まん	門を出てもどこに恋しい都を見渡せようか、いや見渡せない	
27	何	いつくにか (どこに)		牛何之	牛何くにか之く	牛はどこへ行くのか	
28	何	いつくにか (どこに)		逸逸何之	逸逸として何くに之かんと欲する	あわてふためいてどこに行こうと望むのか	
29	何為	なんする (どうい～か)		客何為者	客は何為る者ぞ	あなたはという者なのか	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その4
30	何為	なんすれぞ (どうして～か)		何為不去也	何為れぞ去らざるや	どうして去らないのか	
31	何以	なにをもって (どうして)		先生何以知之	先生何を以て之を知る	先生はどうしてそのことがわかるのですか	
32	何以	なにをもって (どのようにして)		何以利吾国	何を以て吾が国を利せん	どうい手段で我が国に利益をもたらしてくれるか	
33	如何	いかにせん (どうしようか)		如何吾民何	吾が民を如何せん	わが人民たちをどうしたらよいだろうか	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その5
34	如何	いかにぞ (どうして～か)		如何不涙垂	如何ぞ涙垂れざらん	どうして涙が流れないだろうか、いや流れるに違いない	
35	何如	いかに (～にくらべてどうか)		長安何如日遠	長安は日の遠きに何如	長安と太陽はどちらが遠いか	
36	何如	いかに (どんなであるか)		今日之事何如	今日の事は何如	今日の様子はどうか	
37	安	いつくにか (どこに～か)		沛公安在	沛公安くにか在る	沛公はどこにいるのか	5. 疑問・反語 > 疑問・反語その6
38	誰	たれか (だれが～か)		人生自古誰無死	人生古より誰か死無からん	人間は昔から誰が死なない者があろうか、いや皆死ぬ	
39	誰	たが (だれの～か)		飛來飛去落誰家	飛び來たり飛び去りて誰が家に落つ	飛んできては飛び去ってだれの家に落ちていくのだろうか	
40	孰	いつれか (どちらが～か)		汝与回也孰愈	汝と回とは孰れか愈れる	お前と顔回では、どちらが優れているのか	
41	孰	たれか (だれが～か)		弟子孰為好學	弟子孰か學を好むと為す	門人の中でだれが勉強好きと言えますか	



## 【アプリ版のご紹介】中高生の漢文

再読文字や二重否定、疑問・反語など、漢文の返り点と句法を収録。  
項羽や劉邦を始めとする歴史上の人物や、故事などに関する豆知識も満載！  
アプリ版は、軽快なテンポで多数の問題に挑戦できるので、反復学習に最適です。



## 【他アプリからオマケの一題】

**中高生の古文**  
助動詞「じ」に接続する用言の活用形はどれ？  
(A) 未然形 (B) 連用形 (C) 終止形 (D) 連体形

# 国語「漢文」句法一覧②

no	句法	句形	読み方・意味	例文	書き下し文	現代語訳	アプリ収録パッケージ
<b>反語</b>							
42	豈～哉	あに～んや (どうして～しようか、いや～しない)	豈遠千里哉	豈遠千里哉	豈に千里を遠しとせんや	どうして、千里の道のりも遠いと思うだろうか	5. 疑問・反語 > 反語その1
43	不〔二〕亦～〔一〕乎	また～ずや (なんと～ではないか)	学而時習之、不亦説乎	学而時習之、不亦説乎	学びて時に之を習ふ、亦た説しからずや	学問をして機会あることに復習するのは、なんとうれしいことではないか	
44	寧～乎	いづくんぞ～んや (どうして～か、いや～でない)	王侯将相寧有種乎	王侯将相寧有種乎	王侯将相んぞ種有らんや	王侯や将軍・宰相の位がどうして血統で決まっているものか、いや、決まっていな	
45	独～乎	ひとり～んや (どうして～か、いや～でない)	独無所同然乎	独無所同然乎	独り同じく然りとする所無かんや	どうして同じくそだと認めるところがないだろうか、いやあるはずだ	5. 疑問・反語 > 反語その2
46	独～哉	ひとり～んや (どうして～か、いや～でない)	独畏廉將軍哉	独畏廉將軍哉	独り廉將軍を畏れんや	どうして廉將軍をおそれたりしうか	
<b>使役</b>							
47	命〔レ〕A～〔一〕	Aにめいじて～しむ (Aに命令して～させる)	院命義経討平氏	院義経に命じて平氏を討たしむ	院義経に命じて平氏を討伐させる	後白河院は義経に命令して平氏を討伐させる	6. 使役・受身・比較 > 使役
48	使〔二〕A～〔一〕	Aをして～しむ (Aに～させる)	天帝使我長百獸	天帝私をして百獸に長たらしむ	天帝は私を全ての動物の長にさせた	どうして私を全ての動物の長にさせた	
49	令〔二〕A～〔一〕	Aをして～しむ (Aに～させる)	王令人学之	王人をして之を学ばしむ	王は人をして之を学ばせた	王は人をやつてこれを学ばせた	
<b>受身</b>							
50	為〔二〕A所〔一〕レ～	Aの～するところとなる (Aに～される)	襄公為弟無知所弑	襄公為弟の無知の弑する所と為る	襄公は弟の無知に殺された	うそがないのに疑われ、真心をつくしているのに悪く言われた	6. 使役・受身・比較 > 受身
51	被	～らる (～される)	信而見疑、忠而被謗	信にして疑はれ、忠にして謗らる	信にして疑はれ、忠にして謗らる	私はかつて三度主君から追放された	
52	見	～らる (～される)	吾嘗三見逐於君	吾嘗三見逐於君	吾嘗て三たび君に逐はる		
<b>比較</b>							
53	莫〔レ〕如	～にしくはなし (～が一番良い)	百年之計莫如植樹	百年の計は樹を植うるに如くは莫し	百年の計を立てるなら、木を植えることが一番である	六つの国が南北にまたがる同盟を結び、秦の国をしりぞけるのが一番良い	6. 使役・受身・比較 > 比較
54	莫〔レ〕若	～にしくはなし (～が一番良い)	莫若六国從親以擯秦	六国從親して以て秦を擯くるに若くは莫し	六つの国が南北にまたがる同盟を結び、秦の国をしりぞけるのが一番良い	一つ得になることを始めるよりは、一つ害を取り除くほうがよい	
55	不〔レ〕若	～にしかず (～に及ばない)	興一利不若除一害	興一利を興すは一害を除くに若かず	地利の利は人の和に如かず	地勢の有利さは一致団結した人々の強さには及ばない	
56	不〔レ〕如	～にしかず (～に及ばない)	地利不如人和	地利不如人和	地の利は人の和に如かず		
<b>選択</b>							
57	与〔レ〕A寧B	Aせんよりは、むしろBせよ (Aするよりは、Bする方がよい)	喪与其易寧戚	喪は其の易まらんよりは寧ろ戚め	葬儀に関しては形がととのっていることよりも、むしろ心から悲しむことだ		7. 選択・仮定・限定 > 選択
58	寧A無B	むしろAすとも、Bすることなかれ (Aしてもよいが、Bしてはいけない)	寧為鷄口無為牛後	寧ろ鷄口となるも牛後と為る無かれ	鶏のくちばしにはなつても、牛の尻にはなるな		
<b>仮定</b>							
7. 選択・仮定・限定 > 仮定その1							
59	苟	いやしくも～ば (もし～なら)	苟無恒心、放辟邪侈、無不為已	苟くも恒心無ければ、放辟邪侈、為さざること無きのみ	もしもいつも変わらない道義心がないと、わがまま勝手に悪い行いをし、どんなことでもしてしまうのだ		7. 選択・仮定・限定 > 仮定その2
60	如	もし～ば (もし～なら)	如詩不成、罰依金谷酒數	如し詩成らずんば、罰は金谷の酒數に依らん	もしも詩ができなかったらば、昔金谷園という別荘で起きた話と同様に、罰杯として、三杯の酒を飲ませることにしよう		
61	若	もし～ば (もし～なら)	学若成不復還	学若し成る無くんば、復た還らず	学問がもし大成しなければふたたび故郷には戻らない		
<b>限定</b>							
62	雖	～とい～ども (たとえ～としても)	回雖不敏、請事斯語矣	回不敏なりと雖も、請ふ斯の語を事とせん	私・顔回は至らぬ者ではありますが、今のお言葉を自分の行うべきことにしたいと思います		7. 選択・仮定・限定 > 限定
63	縱	たとひ～ども (たとえ～としても)	縱彼不言、籍獨不愧於心乎	縱ひ彼言はずとも、籍独りに愧ぢざらん	たとえ彼等が私に不平を言わなくても、私・項羽はどうして恥ずかしく思わずにいられよう		
64	独	ひとり～のみ (ただ～だけ)	今独臣有船	今独り臣のみ船有り	今私だけが船を持っております		7. 選択・仮定・限定 > 限定
65	惟	ただ～のみ (ただ～だけ)	無恒産而有恒心者、惟士為能	恒産無くして恒心有る者は、惟だ士のみに能くすと為す	一定の財産がなくとも不変の道義心があるということは、優れた人物だけができることである		
<b>抑揚</b>							
66	A且B、況C乎	AすらかつB、いわんやCをや (AでさえBだから、ましてCはなおさらだ)	死馬且買之、況生者乎	死馬すら且つ之を買ふ、況んや生ける者をや	死んだ馬でさえ買ったのだ、まして生きた馬ならなおさら買うだろう		8. その他 > 累加
67	A尚B、況C乎	AすらなほB、いわんやCをや (AでさえBだから、ましてCはなおさらだ)	庸人尚羞之、況於將相乎	庸人すら尚ほ之を羞づ、況んや將相に於いてをや	普通の人間でさえ恥ずかしく思う、まして将軍や宰相ならなおさらだ		
68	而況A乎	しかるをいわんやAをや (ましてAならなおさらだ)	至犬馬尽然、而況於人乎	犬馬に至るまで尽く然り、而るを況んや人に於いてをや	犬や馬に至るまでみんなそうだ、なのに、まして人間であればなおさらそう		
69	以〔レ〕A且～	Aをもってすらかつ～ (Aでさえなお～する)	以聖人之賢且学	以て聖人の賢を以てす且つ学ぶ	聖人の賢のようにすれていてさえ、なお学ぶのだ		
70	豈惟～	あにただに～のみならんや (どうしてただ～だけだというのか)	豈惟息之、又從而盜之	豈に惟だに之を怠るのみならんや、又從而之を盜む	どうしてただ怠けているだけであろうか、さらに盗みを働いてもいるのだ		8. その他 > 並列
71	非〔二〕独～〔一〕	ひとり～のみにあらず (ただ～だけではない)	非独賢者有是心也	独り賢者のみ是の心有るに非ざるなり	ただ賢者にだけこの心があるのではない		
72	不〔二〕唯～〔一〕	ただに～のみならず (ただ～だけではない)	不唯忘痛、可以終老	唯だに痛るを忘るるのみならず、以て老を終ふべし	この土地は、ただ都に帰るのを忘れさせるだけでなく、晩年を過ごすのによい		
73	不〔二〕独～〔一〕	ひとり～のみならず (ただ～だけではない)	不独漢朝今亦有	独り漢朝のみならず、今も亦有り	ただ漢王朝の時代だけでなく今の時代もまたある		
<b>並列</b>							
74	A与〔レ〕B	AとBとは (AとBと)	有鬻楯与矛者	楯と矛とを鬻る者有り	楯と矛とを売る者がいた		8. その他 > 願望
75	与～	～と (～と)	管仲嘗与鮑叔買	管仲嘗て鮑叔と買す	管仲はかつて鮑叔と商売をしたことがあった		
<b>願望</b>							
76	請～	こふ～せん (どうか～したい)	請以戰喻	請ふ戦ひを以て喻へん	どうか戦争のことだとえたいと思ひます		8. その他 > 願望
77	請～	こふ～せよ (どうか～してください)	請奏瑟	請ふ瑟を奏せよ	どうか瑟を演奏してください		
78	願～	ねがはくは～せん (どうか～したい)	願聞子之志	願はくは子の志を聞かん	どうか先生のお志をお聞きしたいものです		
79	願～	ねがはくは～せよ (どうか～してください)	願大王急渡	願はくは大王急ぎ渡れ	王よ、どうか急いで長江をお渡りください		
80	欲～	～せんとほつす (～したいと思う)	王必欲長王漢中	王必ず長く漢中に王たらんと欲す	王はいつまでも漢中の王でありたいと願つた		



## 【アプリ版のご紹介】中高生の漢文

再読文字や二重否定、疑問・反語など、漢文の返り点と句法を収録。  
 項羽や劉邦を始めとする歴史上の人物や、故事などに関する豆知識も満載！  
 アプリ版は、軽快なテンポで多数の問題に挑戦できるので、反復学習に最適です。



## 【他アプリからオマケの一題】

**中高生の古文**  
 「つとめて」の意味は？  
 (A) 翌朝 (B) 年末 (C) 週初め (D) 月末